



GO ganic 通 信

つなげよう、有機農業の輪。

Vol.11

2025 年 8 月発行

「江津市の有機農業がもっと知りたい！」
「今日は有機食材を食べてみようかな」
一人でも多くの方に思っただけのように、
江津市のGO-ganicに関する情報をお届けします。

雲南市の給食センターへ視察に

有機農業推進協議会ワーキング A チーム（学校給食への有機農産物の活用促進）の活動として、チーム員、営農コーディネーター、職員合わせて 7 名で雲南市中心学校給食センターへ視察に行きました。同施設は三刀屋、木次、掛合、吉田 4 エリアの施設を合併して令和元年に設立された施設です。県内でも地産地消率の高い雲南市でどのような工夫をされているのか、江津市の有機農産物に置き換えて考えられることは何かを現地で考えました。



▷視察先で説明を受ける様子



▷視察させていただいた時の給食
米と牛乳は常に地元産 100%

同センターで提供する 4 エリアそれぞれに生産グループがあり、地産地消コーディネーターと共に月 1 回の出荷調整会議が開催されます。コーディネーターはそれを元に週 4 日各農家を回り野菜の集荷を行います。調理をしている委託業者は積極的に地元産の野菜を使うため、規格ルールを厳しくしすぎない、長期休暇中に沢山ある野菜を加工して出荷の無い時期に使うなどの工夫がされていました。そのような工夫もあり、高い時は野菜だけで 70%近い地産地消率を達成しています。江津市の給食にどう活かしていけるか今後さらに話し合っていきたいと思います。

桜江小学校×(有)はんだ 反田さん

大豆栽培で行う総合学習

桜江小学校では児童によるみそ作りが長年行われていました。3年前からは5年生の総合学習の時間に自然栽培で大豆を栽培する反田さんの圃場で大豆の栽培体験を行っています。種まき、土寄せ、除草作業、収穫など、定期的に学習しーから大豆を育てます。育てた大豆は2月頃にみそ作りで使うほか、沢山収穫できた時は豆腐などの加工品を作ってみるそうです。豆は種として次の学年に繋ぎ、来年度の種まきに使われます。



▷大豆に土寄せ作業をする児童



▷反田さんの機械作業を見学している様子

今年の児童は全員で18名。4条の畝をそれぞれエリア分けして自分の担当する場所に種まきから行います。「暑い!」「疲れたー」と言いつつも「座って授業聞くより楽しい」「算数よりも畑の授業が好き」などの声がちらほら。2学期にはいよいよ収穫の時期です。今年大豆はどのくらい収穫できるか、これから楽しみです。無事に育ちますように。

江津市有機農業推進協議会からのお知らせ

野菜 PR シールを活用しよう!

農薬や化学肥料を使用しない栽培をしている農産物を消費者に安心して購入してもらうため「江津市有機農業推進協議会」で野菜 PR シールを作成、無料配布をしています。栽培記録などで農薬・化学肥料を使用していない証明などいくつかの条件を満たす人にお渡ししています。詳しくは協議会までお問合せください!



有機農業に取り組む団体を支援します!

有機農業を実践する地域団体が行う独自の取組を支援します。講師謝金、視察料、研修負担金、印刷製本費などに使うことができます。(2分の1以内、年額5万円以内)しています。

GOganic ゴーガニックとは

長きに渡って有機農業を実践する生産者、オーガニックな食や暮らしの在り方を提唱する民間の有志メンバー、それらを取りまとめる江津市農林水産課、三者が手を取り合って立ち上がったプロジェクトです。イベントの開催や有機農業推進に向けた様々な活動を行っています。

詳しくはウェブサイトへ ▶▶



公式 LINE アカウント

こちらの通信をはじめ、協議会発信の様々な情報を発信しています。ぜひ友だち登録してください!